

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

## 1. 建物概要

建物名称	新津図書館
建設地	秋葉区 日宝町105-11,105-1
用途地域	第一種住居地域
建物用途	事務所
竣工年	2014年3月 予定
敷地面積	3,739.77 m <sup>2</sup>
建築面積	1,748.28 m <sup>2</sup>
延床面積	2,292.36 m <sup>2</sup>
階数	地上2F
構造	S造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2012年10月



## 2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{63}{35} = 1.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.7		バリアフリー	4.0
			維持管理	4.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	4.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	4.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.0		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

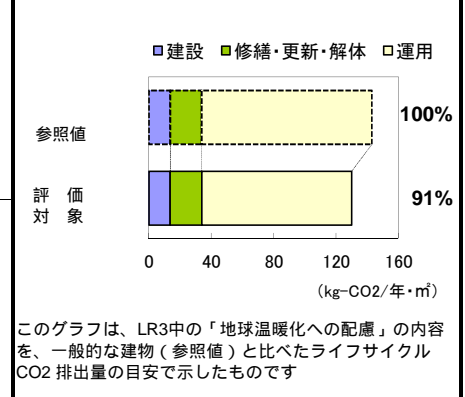
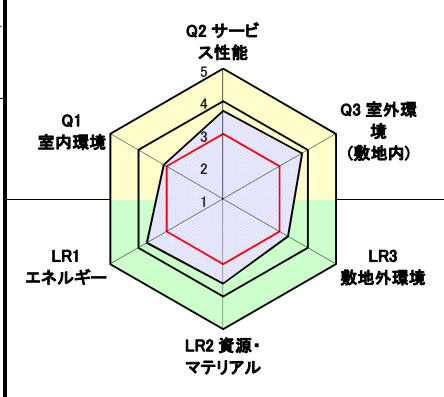
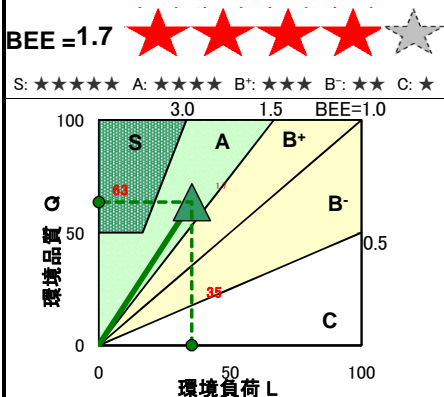
- 長寿命化の取組み…維持管理しやすい建材を使用。
- 大雨への取組み…指導致に添った雨水抑制を計画。
- 自然エネルギー利用の取組み…大きな庇で日射遮蔽性能を高める。
- 資源循環の取組み…リサイクル建材の一部使用、構造材と仕上材を分離可能な計画。
- 水と緑を活かす取組み…新津川沿いの広場との連続性を意識した緑地計画。
- 新潟のまちなみへの取組み…地場の杉材を活用し、地域固有の風土、歴史、文化を継承。

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

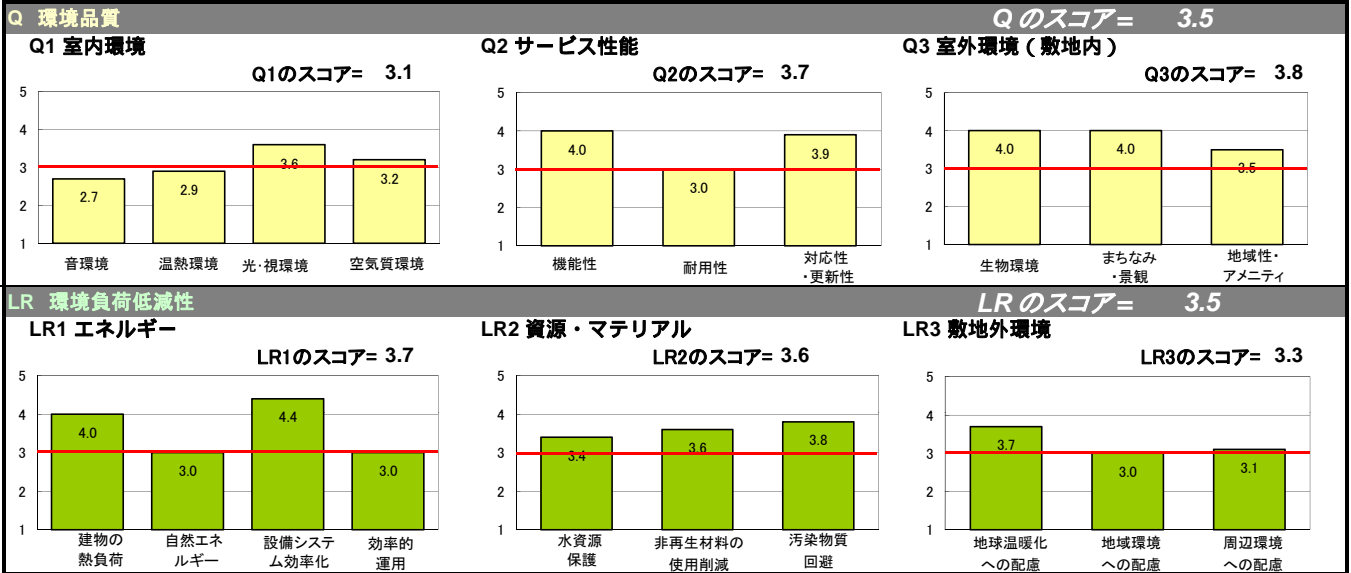
## 評価結果内訳

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)** | **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**



**2-4 中項目の評価(バーチャート)**



**2-5 設計上の配慮事項**

<b>総合</b> 古くからの「まちなか」にある新津図書館の改築にあたり、隣接する新津川周辺の自然環境との調和を図るとともに、自然採光などを積極的に利用した快適性と省エネルギー性を両立できる建物とする。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> Low-Eペアガラスの採用と深い庇を設置することで熱負荷の低減を図る。タスク・アンビエント照明の利用で最適な光環境を創造する。	<b>Q2 サービス性能</b> 閲覧室の天井高さにゆとりを持たせ空間の広がりを意識した。また、建物全体のユニバーサルデザイン化を徹底し公共図書館としてのサービス性能の向上を図る。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 新津川沿いの広場との連続性を意識した配置計画により周辺環境と調和した計画とする。
<b>LR1 エネルギー</b> 開口部の庇、Low-Eペアガラスの採用で熱負荷を抑制し、省エネルギー化を図る。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型器具の採用、地元の間伐スギ材の内装への積極的利用を図る。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐車場は2方向の出入口を確保し交通負荷抑制を図る。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される